

瀬野川に行こう

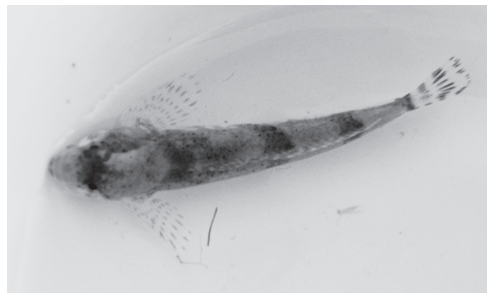
今年も暑い夏がやってきました！
今月号では、いつも何気なく利用している瀬野川の、環境保全活動に取り組む「瀬野川を楽しむ会」の活動を紹介します。



撮影：職場体験中の表 幹也さん（海田西中2年）、友田 ひろかさん（同中2年）

カサゴ目カジカ科

生活型によって、一生を淡水で過ごす河川型を大卵型、ふ化後に川を下り稚魚の時期を海で過ごして成魚になると再び遡上する小卵型に分けられる。大卵型は、山地の渓流などの上流域を中心に、小卵型は中流域から下流域にかけて生息する。石ころ中心の川底を好み、水生昆虫や小魚、底生生物などを食べる。
瀬野川で発見されるのは約12年ぶり。



カジカ

ほかにもたくさんの生物が生息しています



アカハライモリ



アユ



ウキゴリ



ウナギの稚魚



オイカワ



ガムシ



シジミ



スッポン



トウヨシノボリ



ナマズ



ムギツク

瀬野川を楽しむ会とは

瀬野川の環境保全に全力で向き合っている男性13名、女性3名で構成される団体です。会員には町外の高等学校や大学の先生らも所属しており、一丸となって活動しています。

会の発足は、さかのぼること12年前、子どもの夏休みの研究で、瀬野川の生態系などを調べるために定点観測を始めたことがきっかけです。環境保全活動はもちろんのこと、瀬野川の魚や護岸の植物などを掲載した図鑑づくりなどにも力を入れています。

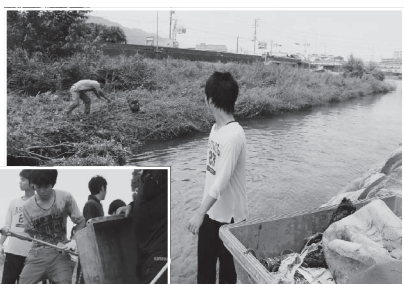
瀬野川は私たちの貴重な資源であるとともに、生物が生きる大切な場所でもあります。瀬野川を楽しむ会では、ボランティア活動に積極的に取り組んでいます。また、地域の皆さんにも協力を呼びかけています。

先月10日、クラーク記念国際高等学校（広島市南区）の生徒と植栽管理や瀬野川河川内の清掃をしました

1〜3年生の23人が参加。来月14日に行われる海田南小学校の児童らが参加する瀬野川探索会「瀬野川を知ろう」が、ゴミのない瀬野川で実施できるよう、みんなできれいにしました。



▲▶たくさんゴミが出てきました



▲▶ちゃんと分別して処理場に運びました



最後に：

当時瀬野川には、今よりもたくさんの生物が住んでいて、とても豊かでした。そんな中、護岸工事が始まり、生態系が壊れる恐れがあったので、治水と環境が両立する河川工事の工法を提案するなど、瀬野川の環境を守ってきました。

瀬野川には未だ拾いきれないゴミがたかくさんあります。河川敷の清掃活動はたくさん実施されていますが、川の中に入っの清掃活動はとても大変です。毎年2回、県内の学生たちと一緒に、河川内の清掃活動をしています。安全面にも配慮し、事前準備も万全にしているので、これまで一人もけが人を出したことはありません。



中村 幸春さん
（瀬野川を楽しむ会 代表）

今後は河川敷に繁殖しているアレルギー植物をできる限り排除することが目標です。子どもたちが安全に遊べ、ジョギングする人が花粉症に悩まされないようにしなければいけません。そこで私はワイルドフラーという花に着目しました。手入れがいらず、アレルギー疾患を出さないこの花には、自然の力でアレルギー植物を退ける力があります。このワイルドフラーが河川敷に広がってけば、より多くの住民が和める環境になるのではないかと考えています。

皆さん、一緒に瀬野川で楽しみましょう。そのために瀬野川をきれいにしていましよう。